



新たな気持ちでスタート

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。穏やかな年明けとなりましたが、感染症が流行しており、体調を崩された方もおられたのではないかと思います。

新年を新たな気持ちで迎えられた方も多い事と思います。節目を「新たな気持ちでスタートする」ことは人が生きていく中で培われた知恵なのではないでしょうか。1日、1週間、1か月、春夏秋冬(四季)、1年といろいろな節目や行事があることで、豊かな生活につながっていきます。うれしい事はより高め、つらい時や落ち込んだ時も気持ちを新たに作るチャンスが待っています。

大人が切り替えたり高めたりしながら、より豊かな生活を送る見本をぜひ見せていきましょう。きっと、切り替え上手な子ども達になってくれるでしょう。

園長 長谷部 弥生

講演会「まちの未来をつくるこどもたち」

にちなん十色がモデル園として研修している「新宿せいが子ども園」と日南町が連携協定を結び、幼児教育をより充実していくことになりました。

新宿せいがこども園の藤森園長が来町されて、講演会を開催します。

ぜひご参加ください。

日時 令和7年1月15日(水) 15:30~17:00

場所 日南町役場 交流ホール

講師 新宿せいが子ども園園長 藤森 平司さん

演題 「まちの未来をつくるこどもたち」

～町の未来の在り方と子どもたちへのかかわりについて、一緒に考えてみませんか?～



手当て の巻

共育(ともいく)コーナー



ケガや病気などの処置をする医療行為を『手当て』といいます。なぜ手で肌や体に触れると痛みが和らいだり、心が穏やかになったりするのでしょうか。

その理由の一つとして挙げられるのが、『絆ホルモン』『幸せホルモン』と呼ばれるオキシトシンの存在だそうです。脳から分泌されるオキシトシンの量は、親しい人と触れ合うなどのスキンシップによって、増大することがさまざまな研究から分かっています。

皆さんの中には子どもの頃…「痛い痛い飛んでいけ～」と、なでてもらって元気を取り戻した経験がありませんか。これは子どもの不安を心理的に拭いているのと同時に、注意を逸らすといった偽薬効果をうまく利用したものだと言われていますが、同時にホルモンも分泌されているので、絆をを強め、幸せを感じられる手当てとなっていたのでしょうか。

実際に園でも、子ども達に関わる大人が、言葉は無くてもそっと肩に手を置いて傍にいてだけで…また、やんわりと掌を揉んであげることで…、そういった姿によって元気を取り戻し、自ら次ステップへ進んでいく子ども達の姿があります。ご家庭でも、きっと思い当たる節があるのではないのでしょうか。今年は、一緒に幸せホルモンを大放し出していきましょう。